

音声通訳スキルアップ講座

特定非営利活動法人えひめ盲ろう者友の会
高橋 信行

本講義の構成

- Part I 伝わるために
- Part II 通訳であるために
- Part III 精神的世界の創造のために

A状態



1 光と音を失ったとき、
まるで宇宙でひとりぼっちでいるようだった。

B状態



2 指点字というコミュニケーション手段を
手に入れたとき、壺の中に入れられて
誰かが時々、壺のふたを開けて
話しかけてくる、そんな感じだった。

C状態



3 指点字通訳を手に入れたとき、
集団の中で活躍できるようになった。

A状態



B状態



C状態



Part I
伝わるために

Part II
通訳であるために

Part III
精神的世界の
創造のために

Part I 伝わるために

可能および最も円滑な受信コミュニケーション方法は「音声」

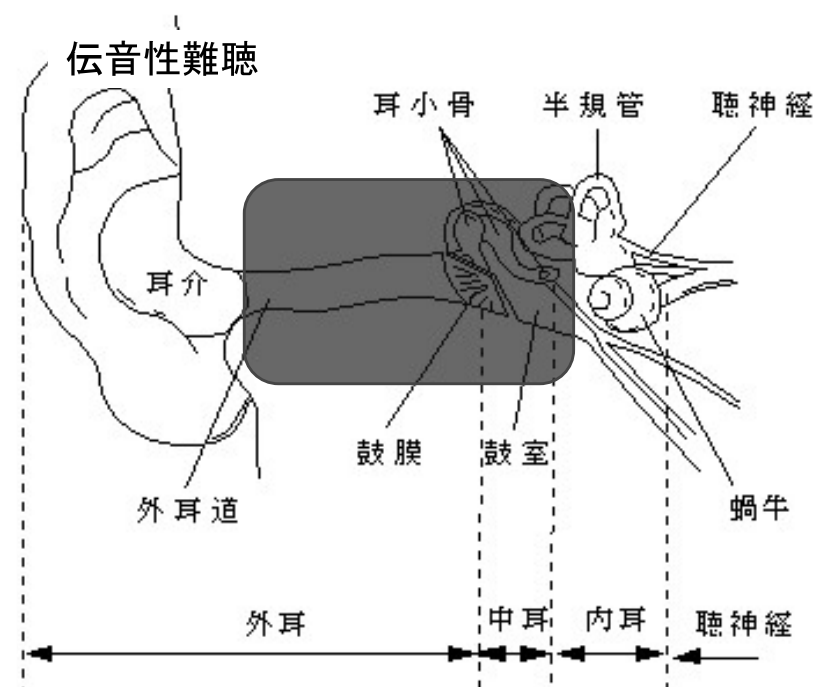
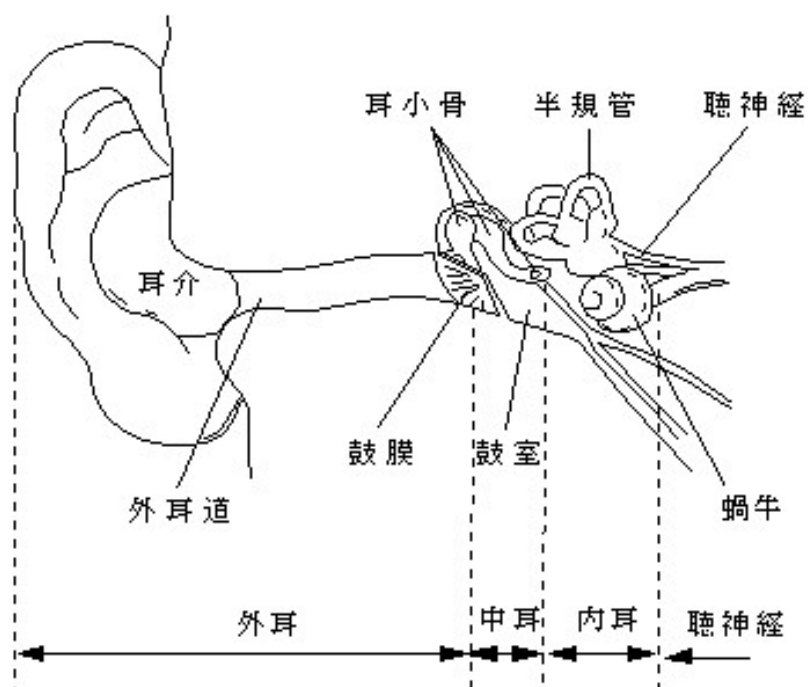
■ 可能な受信コミュニケーション方法

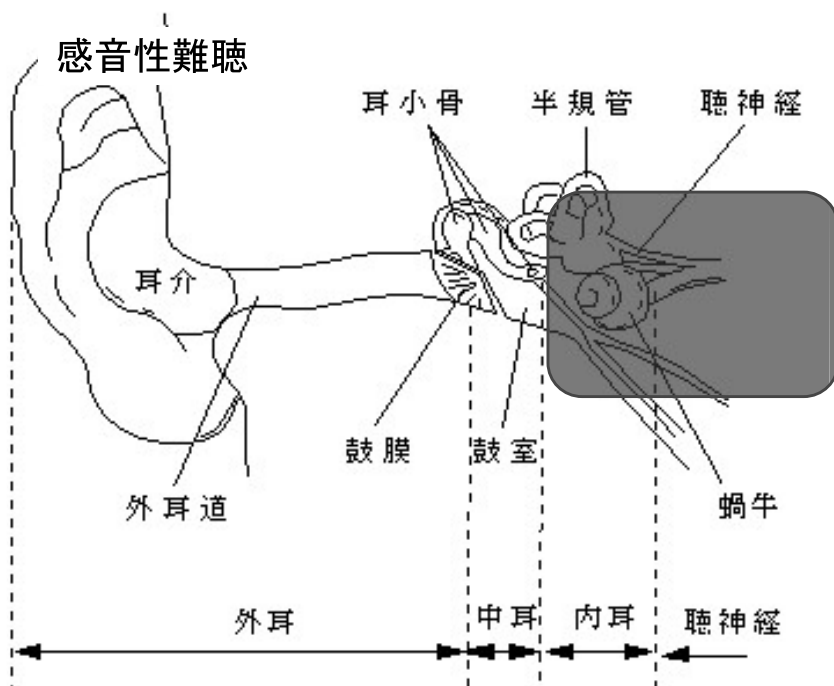
可能な受信コミュニケーション方法では、「音声」の割合が最も高く 69.0%。

・次いで、「筆記」20.2%、「手書き文字」13.2%となっている。

表 2-2-6a 可能な受信コミュニケーション方法

	人数	割合
音声	1870	69.0%
手話を見る（弱視手話）	218	8.0%
手話を触る（触手話）	182	6.7%
指文字を見る	126	4.6%
指文字を触る	103	3.8%
手書き文字	358	13.2%
筆記	549	20.2%
点字	131	4.8%
指点字	45	1.7%
その他	198	7.3%
特にない	225	8.3%



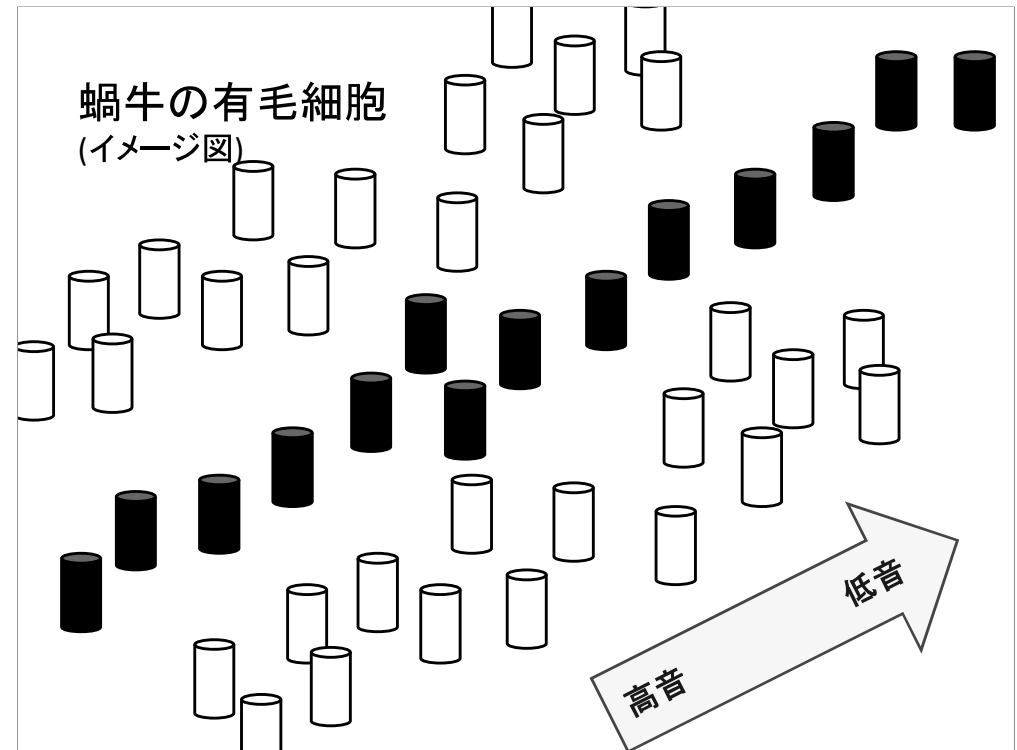


難聴の種類による聞こえ方の違い

- 伝音性難聴
 - 音が小さく聞こえる
 - 補聴器で音を大きくすることで比較的解決しやすい
- 感音性難聴
 - 音がこもって聞こえる
 - 歪んで聞こえる
 - 誰かが話しているのは分かるが何を言っているのか分からない。(隣の部屋で話しているのを聞いているよう)
 - 補聴器で音を大きくしただけでは解決しない

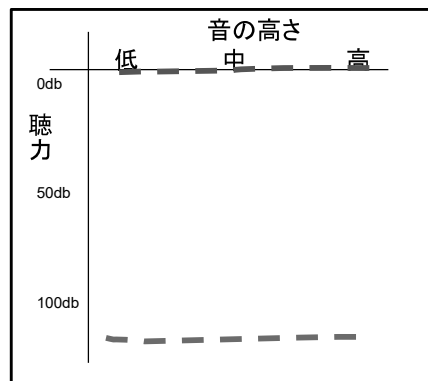
アッシャー(Usher)症候群

- 盲ろう者の半数を占めると言われる
- 感音性難聴に網膜色素変性症を伴う症候群性の疾患
- タイプ1 → 弱視ろう、全盲全ろう
 - 先天性の高度難聴を呈する。視覚症状は10歳前後より生じる。
- タイプ2 → 弱視難聴、全盲難聴
 - 先天性の高音障害型難聴を呈する。視覚症状は思春期以降に生じることが多い。前庭機能は正常である例が多い。
- タイプ3 → 全てのパターン
 - 進行性の難聴を呈し、前庭機能障害の有無、および視覚症状の発症時期は様々である。
- 音声通訳の対象となるのはタイプ2と3と考えられる。

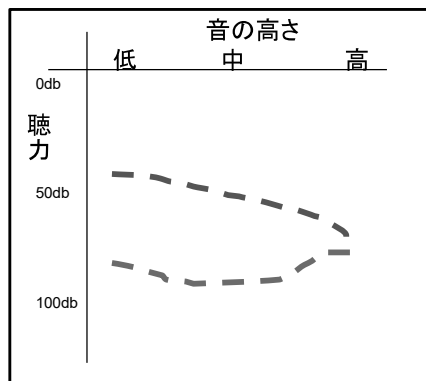


聞こえる音の範囲 (聴野)

健聴者のオーディオグラム



盲ろう者のオーディオグラム



音のストライクゾーン



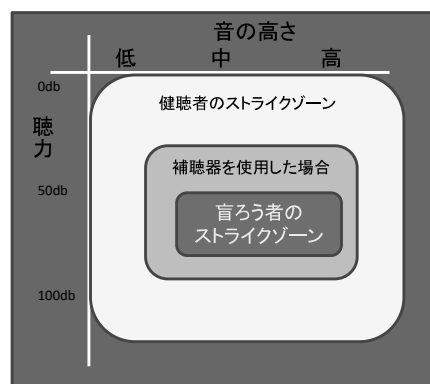
補聴器は音のストライクゾーンを少し広げる

デジタル補聴器では

- ・小さい音は大きく
- ・大きい音はそのまま
- ・音質を改善

→ストライクゾーンを
広げる効果

健聴者と同じように
聞こえるように
なるわけではない。



盲ろう者の音のストライクゾーンに音を入れていく

- ・ ちょうど良い音の大きさ
- ・ 聞きやすい音の高さ
- ・ 明瞭に発音
- ・ 口ごもった発声で通訳すると

こもり × こもり = もこもこ

明瞭な音声を得るために (距離)

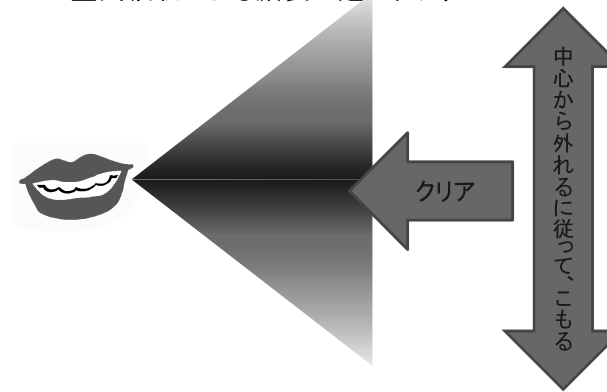
- 通訳者の口から
盲ろう者の耳までの距離



- できるだけ近い方が良い

明瞭な音声を得るために (口の方向)

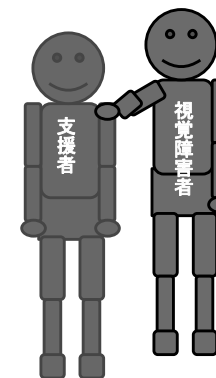
- 通訳者の口の向いている方向
 - 方向がそれると音がこもる
 - 高い周波数の音ほど、
空気吸収による減衰が起こりやすい。



語尾までしっかりと ストライクゾーンに入れていく

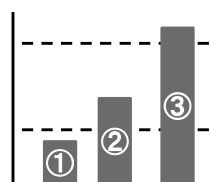
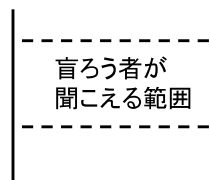
- 日本語における語尾
 - 語尾が聞き取れないと
結局、通じない。
- 発声の最初から最後までを音のストライクゾーンに納める。
(途中でストライクゾーンを外れないように)

視覚障害者用の移動支援スタイルではNG



- 視覚障害者の手引きは、
肩や肘に手を置いて
ガイドの一步後ろを歩く。
- 通訳介助者の口から
盲ろう者の耳までが遠い。
- 通訳介助者の口が
盲ろう者の耳の方向を
向いていない。
- 音声は小さく、こもる

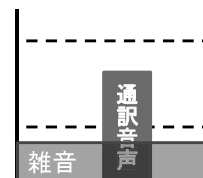
適切な声の大きさ



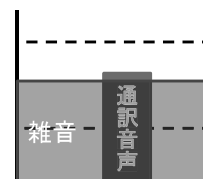
- ①小さすぎて聞こえない
- ②適切な音量で良く聞こえる
- ③大きすぎて聞き取れない

S/N比

- 「S/N比 (Signal – Noise – Ratio) 」とは
 - S -> Signal 通訳者の音声
 - N -> Noise 雑音 (通訳者の音声以外の音)

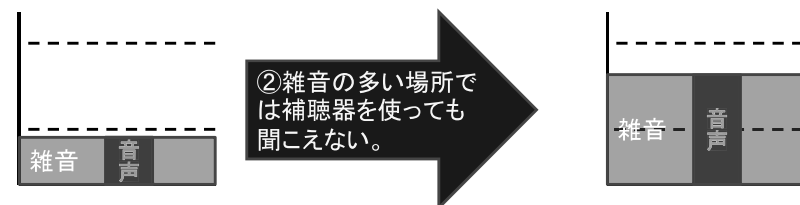
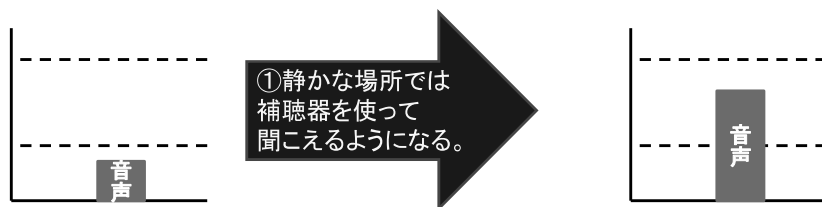


- ①S/N比が良い。
良好に聞こえる。



- ②S/N比が悪い。
健聴者には聞き取れても、
盲ろう者には聞き取れない。
(ノイズによるマスキング効果)

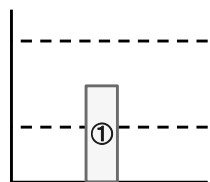
補聴器で聞こえるようになる場合とそうでない場合



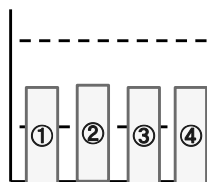
FMマイクを用いた補聴器では良好なSN比が得られる



盲ろう者ではカクテルパーティー効果が得られない。

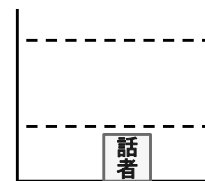


①話者が一人の時
健聴者 ○
盲ろう者 ○

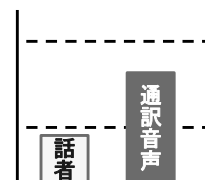


②話者が複数になると
健聴者 ○ ← カクテルパーティー効果
盲ろう者 ×

話者の声を音声通訳する

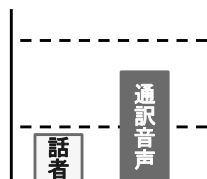


①盲ろう者に話者の声は聞き取れない。

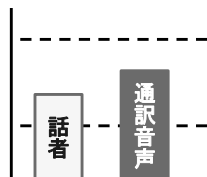


②そこで通訳介助者が
話者の声を通訳する。
盲ろう者に通訳介助者の声だけが聞こえる。

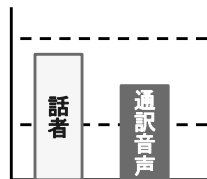
話者と通訳介助者の声がかぶるケース



①理想的な状態



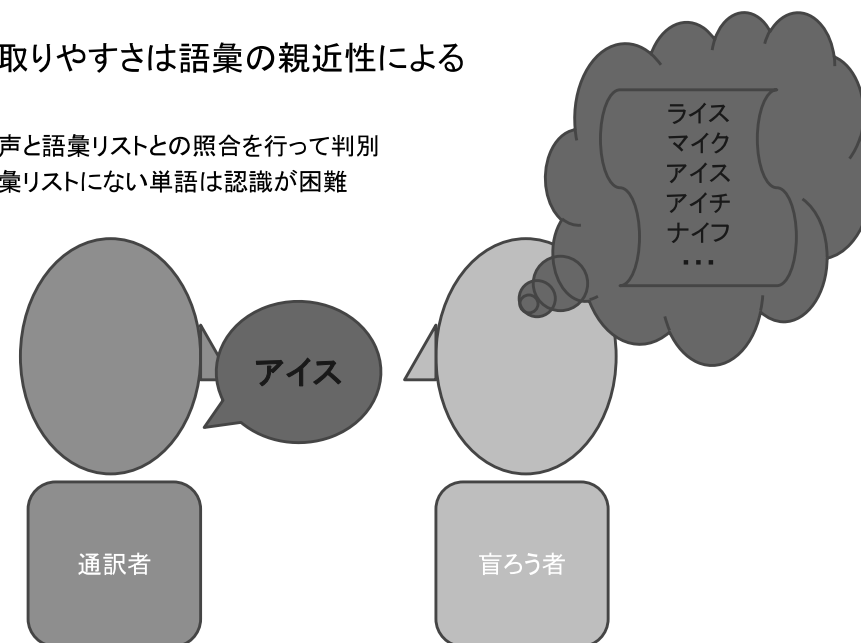
②話者と通訳介助者の声がかぶるケース
(話者と通訳介助者の両方の声が聞こえて
聞き取りづらい)



③話者と通訳介助者の声が逆転するケース
(通訳介助者の声より、話者の声の方が大きく聞
こえていて通訳介助が不要なケース)

聞き取りやすさは語彙の親近性による

- 音声と語彙リストとの照合を行って判別
- 語彙リストにない単語は認識が困難



「さ」？
「た」？
「か」？
「は」？

- これらの音は区別が困難
- 「しゃ、ちゃ、きゃ、ひゃ」、
「い、き、ひ、ち」等についても同様
- どのように伝えますか？

- 聞き取れない発音を何度繰り返しても、
聞き取れない。
→ 注意不足で聞き取れないのではないから。

「かきくけこ」の「か」
のように伝える？

→ NGです。

「かきくけこ」
「さしすせそ」
「たちつてと」
これらは同じに聞こえます。

フォネティック読みで伝えれば良い

文字	綴り	文字	綴り	文字	綴り	文字	綴り	文字	綴り
ア	朝日のア	イ	いろはのイ	ウ	上野のウ	エ	英語のエ	オ	大阪のオ
カ	為替のカ	キ	切手のキ	ク	クラブのク	ケ	景色のケ	コ	子供のコ
サ	桜のサ	シ	新聞のシ	ス	すずめのス	セ	世界のセ	ソ	そろばんのソ
タ	煙草のタ	チ	千鳥のチ	ツ	つるかめのツ	テ	手紙のテ	ト	東京のト
ナ	名古屋のナ	ニ	日本[1]のニ	ヌ	沼津のヌ	ネ	ねずみのネ	ノ	野原のノ
ハ	はがきのハ	ヒ	飛行機のヒ	フ	富士山のフ	ヘ	平和のヘ	ホ	保険のホ
マ	マッチのマ	ミ	三笠のミ	ム	無線のム	メ	明治のメ	モ	もみじのモ
ヤ	大和のヤ			ユ	弓矢のユ			ヨ	吉野のヨ
ラ	ラジオのラ	リ	りんごのリ	ル	留守居のル	レ	れんげのレ	ロ	ローマのロ
ワ	わらびのワ	ヰ	あどのヰ			エ	かぎのあるエ	ヲ	尾張のヲ
ン	おしまいのン	ゝ	濁点	。	半濁点				

「ディラン」と伝える

- 「デ」 → 手紙の「テ」に濁点
- 「イ」 → いろはの「イ」の小さい
- 「ラ」 → ラジオの「ラ」
- 「ン」 → おしまいの「ン」

演習

- 全員でフォネティック読みを「あ」～「ん」まで読み上げます。

演習

- 次の単語をフォネティック読みにして下さい。

① テラス

② デイゴ

③ フォネティック

演習

- 2人一組になる
- 1人は盲ろう者役(目隠しして耳栓を装着)
- 他の1人は通訳介助者役
- 次のことをフォネティック読みで伝える
 - 好きな食べ物
 - 好きな芸能人
 - 最近読んだ本

フォネティック以外の方法

- 意味を説明して伝える
 - 「親近性」 → どれほど慣れ親しんでいるか
- 漢字を説明して伝える
 - 「親近性」 → 親(おや)、近い、性質
- 和訳や英訳して伝える
 - 「親近性」 → affinity
 - 「夕日」 → sunset

↓

聞き取れない言葉を連呼するのではなく
相手に応じて工夫をすること

演習

- 意味を説明
- 漢字を説明
- 和訳や英訳

① 公園

② 冗長性

演習(交代)

- 意味を説明
- 漢字を説明
- 和訳や英訳

① 浅間神社

② 最適化

場面毎に確認する

- 環境や体調の変化による聞こえ方の変動
 - － 環境、体調などで聞こえたり聞こえ方が変化
 - － 各場面において聞こえているかの確認が必要

フィードバックを活用して音声通訳の最適化を図る

- 環境や盲ろう者の体調などによって調整が必要
- 適切な調整が行われるためには、フィードバックの活用が重要
 - － 盲ろう者が意識してフィードバック
 - － 通訳者が盲ろう者の表情、反応などを観察

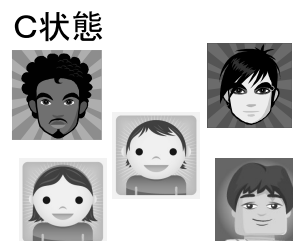
障害の受容の困難

- 盲ろう者の抱える心理的な問題
- 聞こえていないことを主張できない
- 聞こえていないことを認めようとしない

Part II 通訳であるために

伝達成功率は何%？

- 100 ～ 80% 良好状態
 - 落ちた情報は推測により補って、ほとんどの情報は伝えられている。
- 80 ～ 50% 要改善状態
 - 推測によりある程度は補っているが、重要な情報が落ちている可能性が高い。
- 50%以下 伝達不全状態
 - コミュニケーションとして成立していない。
 - 「伝わっていない」ことすら通訳者に認知されていない？



Part I
伝わるために

Part II
通訳であるために

Part III
精神的世界の
創造のために

社会参加とは

- みんなと一緒にいるだけでは社会参加しているとはいわない。
 - 体はみんなと一緒にいても心は孤立しているのでは？
- 社会参加とは盲ろう者が**社会で活躍すること**。
- B状態ではなく、C状態でなければならない。

間接話法と直接話法 & 登場人物の識別

- 間接話法
 - 「田中さんがラーメン食べたいだって、佐藤さんがとんこつが好きだって。」
 - 「本町に新しいとんこつラーメンの店ができてたって、鈴木さんが言ってる。」
- 直接話法
 - 「田中：あー、おなかすいた、ラーメン食べたいなー。」
 - 「佐藤：イエイ、私はとんこつが好きだなあつ。」
 - 「鈴木：おー、それなら、本町に新しいとんこつラーメン屋ができとったぜ。」

A状態



B状態



C状態



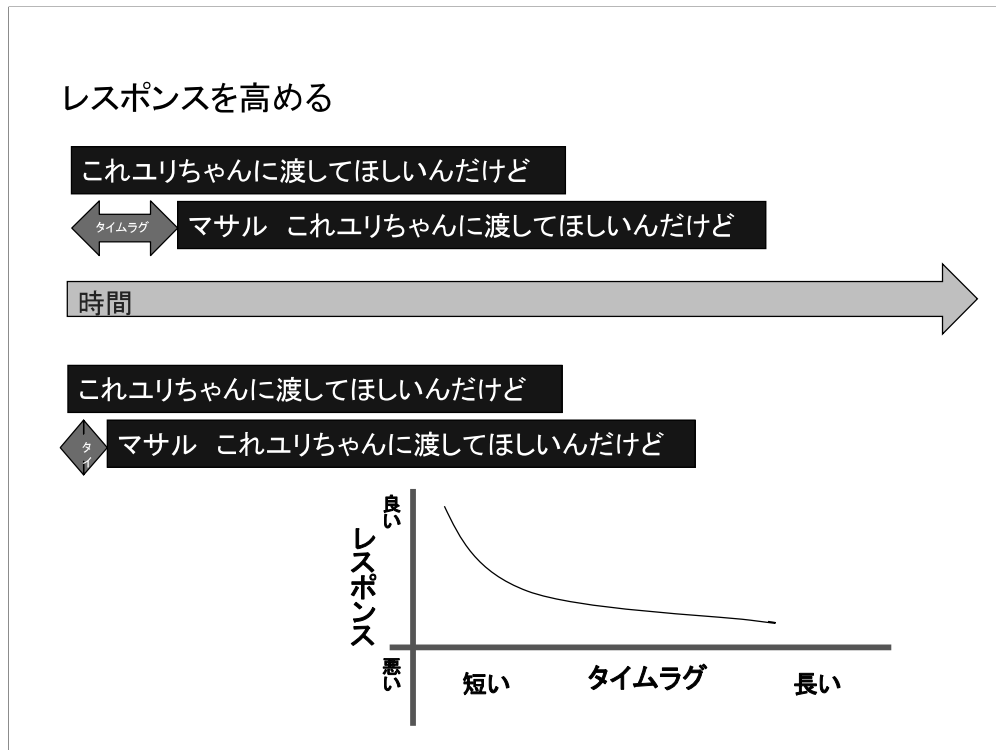
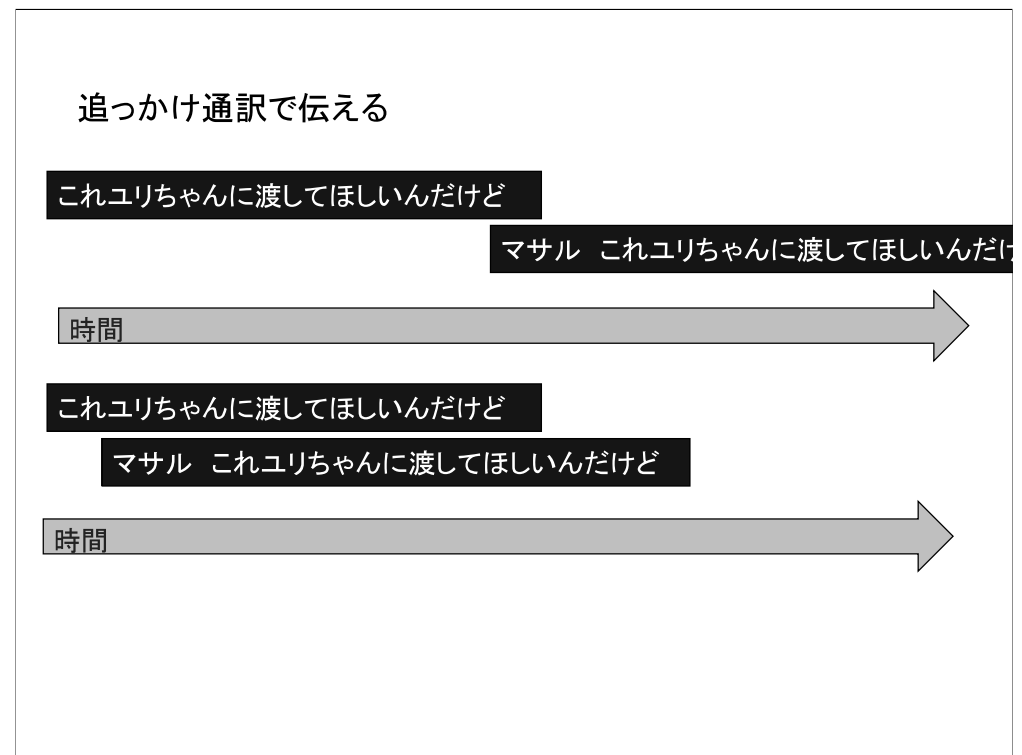
間接話法

直接話法

ご注文は何になさいますか？
おすすめはペスカトーレ
ですが、いかがでしょうか？

音声通訳

ウェイターが来ました。
ウェイター ご注文は何になさいますか？おすすめはペスカトーレですが、いかがでしょうか？



演習

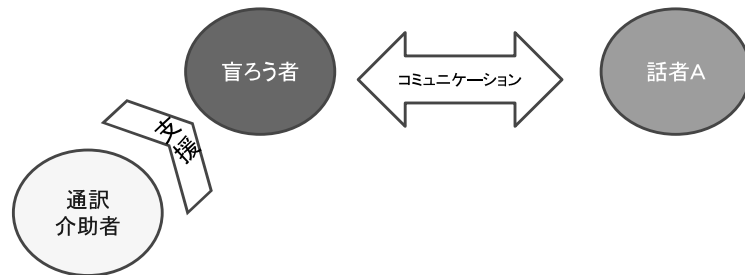
- 2人一組になる
- 1人は盲ろう者役(目隠しして耳栓を装着)
- 他の1人は通訳介助者役
- 演者二人の会話を音声通訳して下さい。

留意点

- 直接話法
- ハイレスポンス

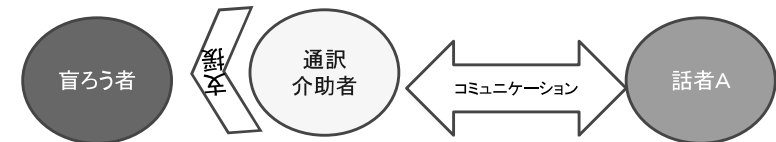
1対1場面での通訳形態

基本的通訳スタイル

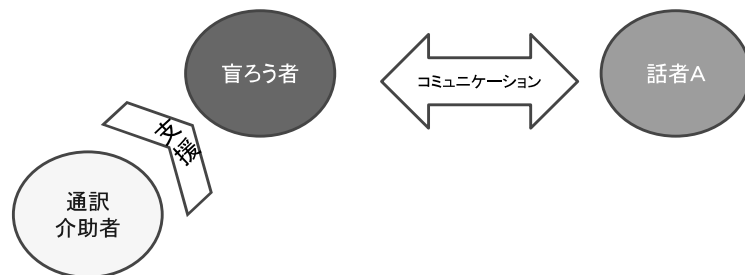


誤りの例

- これは通訳ではなく伝聞
- 自立や社会参加の形になっていない。
→ B状態



基本的通訳スタイル

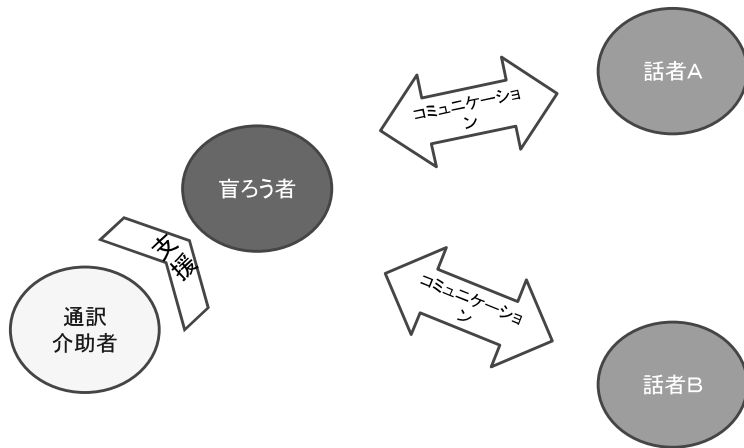


演習

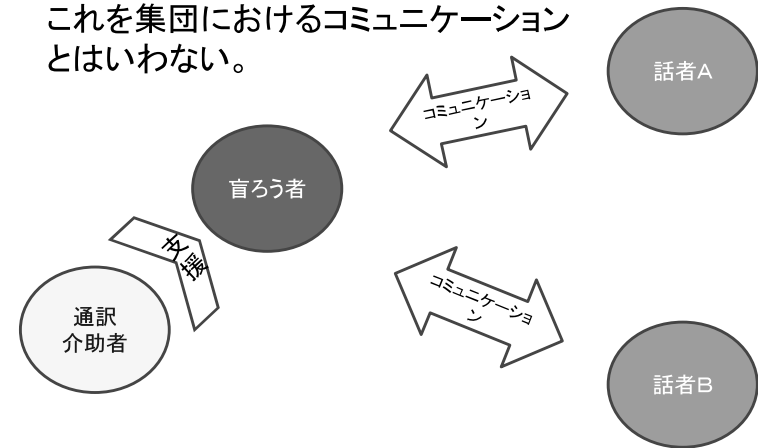
- 3人一組になります。
- 1人目は盲ろう者役 (アイマスク、耳栓を着用)
- 2人目は通訳介助者役
- 3人目は店員役
- アクセサリー店にいます。
- 店員とのやりとりをしながら気に入るアクセサリーを購入しましょう。
- 留意点
 - 通訳介助者の立ち位置

集団における通訳形態

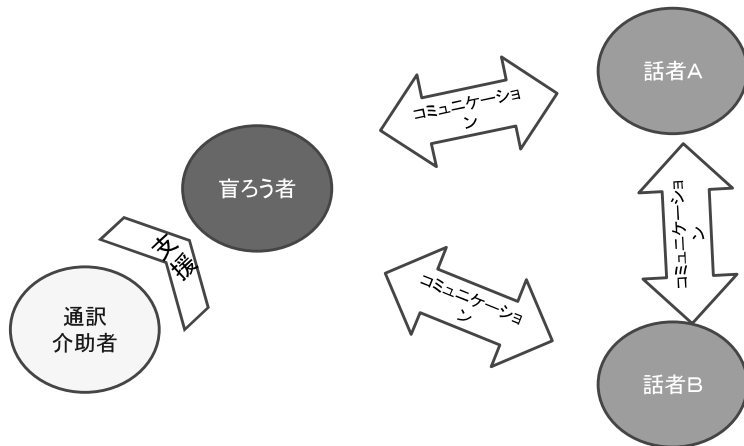
これで良いか？



盲ろう者と話者A、盲ろう者と話者Bのコミュニケーションは存在するが、これを集団におけるコミュニケーションとはいわない。



話者Aと話者B間のコミュニケーションをも通訳しないと集団に参加できない。



集団とのインターフェース（進行スピード）

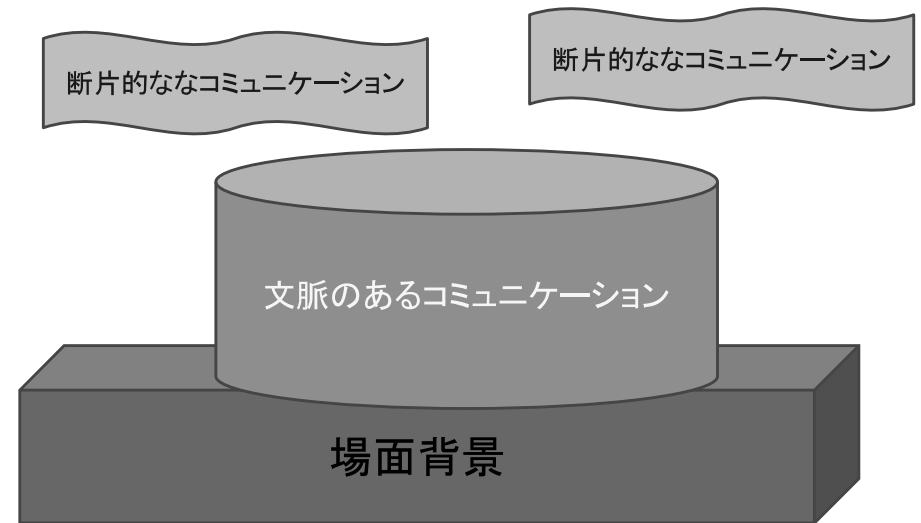
- 全体の進行が早すぎる時、
盲ろう者に情報が伝え終わるまで、
進行の停止や、ゆっくり進行するように
全体に対して要望する。

集団とのインターフェース(発言のタイミング)

- 盲ろう者が発言したい時に、
発言するタイミングを計り
そのタイミングを盲ろう者に伝える。

場面背景の通訳の重要性

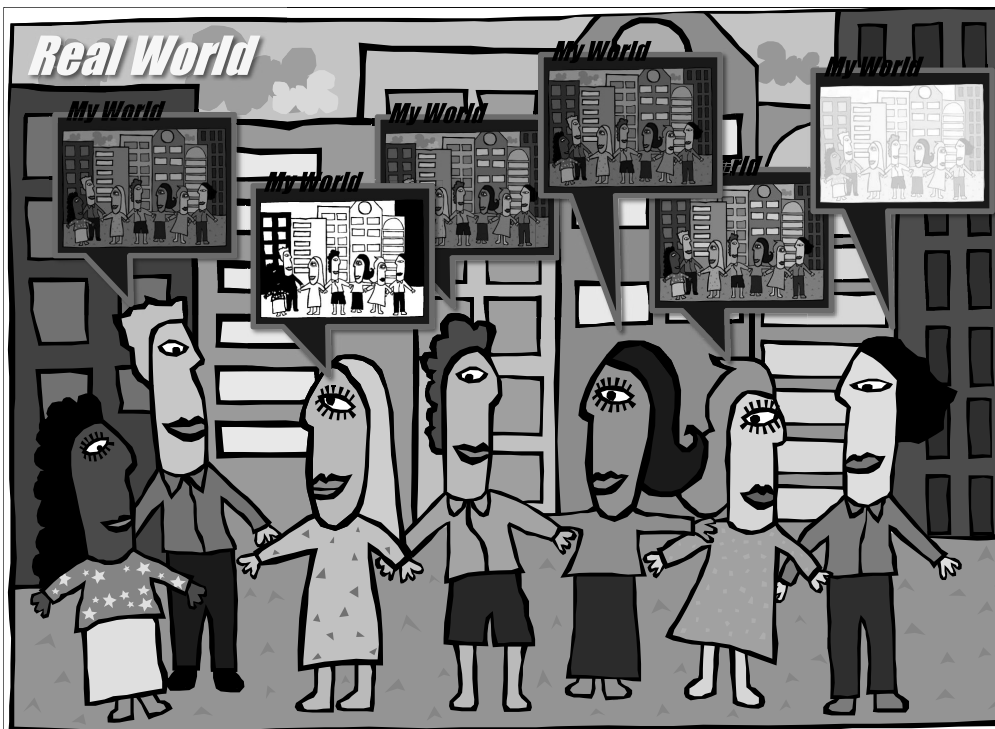
コミュニケーションに文脈をもたらす



ノンバーバルコミュニケーションをも伝えよう

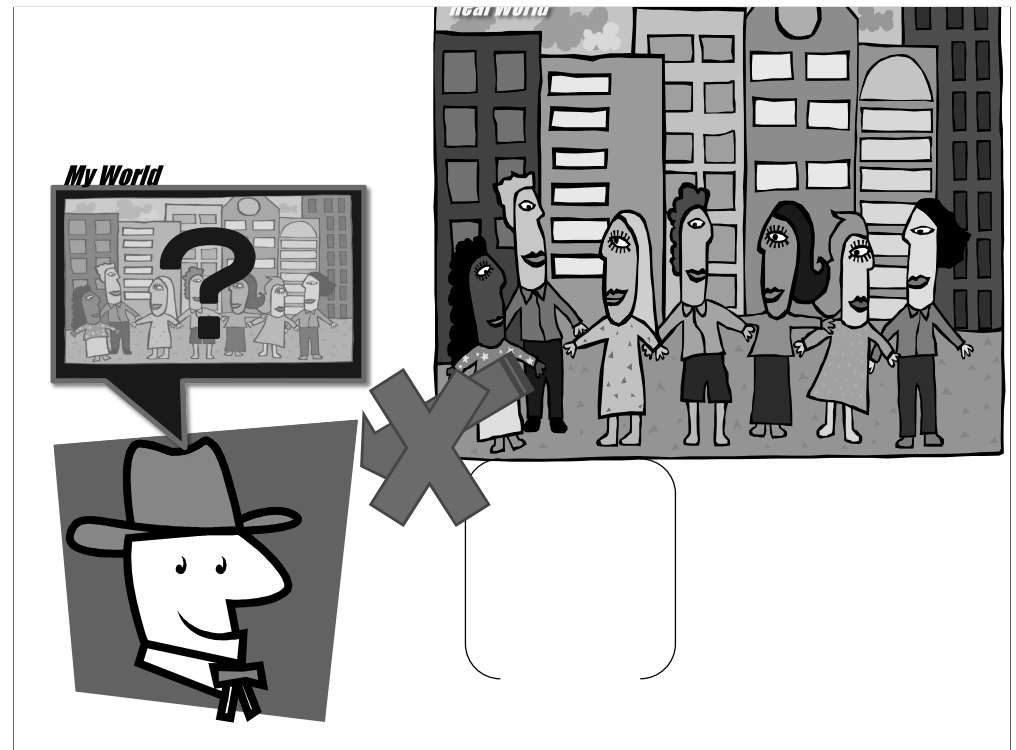
- ノンバーバルコミュニケーションとは？
 - 非言語によるコミュニケーション(65%)
 - 人体(性別、年齢、体格、皮膚の色など)
 - 動作(人体の姿勢や動きで表現されるもの)
 - 目(アイ・コンタクト, 目つき)
 - 周辺言語(話しことばに付随する音声上の性状と特徴)
 - 沈黙
 - 身体接触(相手の身体に接触することによる表現)
 - etc

PartⅢ 精神的世界の創造のために



精神的世界の創造

- 誰もが精神的世界の中で生活をしている。
- どのような精神的世界に住んでいるかという
ことは人生の豊かさを決定づける。



光と音の世界を凝縮して伝える

- 音と光で満ちあふれた世界を、どのようにして言語化するか？
- 膨大な情報量を、限られたコミュニケーション能力で伝達する



- 全てを伝えるは無理



- 取捨選択
 - ITで置き換えられない
 - 人間の通訳介助者のなせること

5W1Hで伝える

Who	誰が
What	何を
When	いつ
Where	どこで
Why	なぜ
How	どのように

「要約」と「私見」の区別

- 要約 → 事実のエッセンスを凝縮
- 私見 → 通訳介助者の考え・判断

※ 私見を伝えてもいいが、
しかるべきタイミングに、
私見であることを明言して伝えればよい。

良い情報とは？

- 情報は多ければ多いほど良いか？ → No
- 良い情報とは
 - 確からしさ
 - シンプル
 - タイミング
- これらを逸脱した情報は「ノイズ」となる。

階段を移動支援するときの有効な情報とノイズ

有効な情報	ノイズ	理由
	「もうすぐ階段です」	不確か
歩くスピードを緩める		この先に何かある
一旦停止		前に何かある
「下り階段です」		
	時々、立ち止まって、足もとを確認する。	不必要
等速で階段を降りていく		階段が続きます
	後、3段です	不確か
階段の終わりで一旦停止		階段の終わり

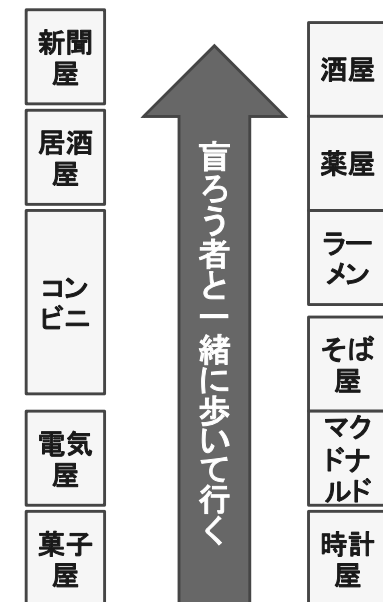
音声にする必要がない情報

- 例えば椅子へのガイド
 - 椅子がある場所を言葉で伝える？
 - 背もたれや座面を触らせればいいのか？
 - すると盲ろう者は自分で座れる。

サインの併用

- 場所や方向を伝えるときに、場所、方向、状態を示すサインを活用
- 例) お店を出るとき
 - 「右側から店員さんがお礼を言っています」
 - ↓
 - 通訳介助者が店員さんの方を指し示し、手で挨拶のサインをしながら
 - 「ありがとうございました。」

どのようにしたら
効率的に
精神的世界を
構築していけますか？



周囲への理解

- 音声通訳は、盲ろう者にだけでなく、周囲の人にも聞こえるので、実施が困難な場面も少なくない。
できる限り周囲の理解を得られるように取り組む

- 盲ろう者の存在の理解
- 通訳の必要性の理解

演習

- 二人一組になります。
- 一人は盲ろう者役 (アイマスクと耳栓を着用)
- 他の一人は通訳介助者役
- 模擬商店街を歩きながら音声通訳をする。
- 留意点
 - 視覚障害者スタイルではなく盲ろう者スタイル
 - 方向や場所はサインにより伝える。
 - 立ち止まらない

有毛細胞は消耗して細胞死する

- 長時間の音声通訳
- 騒音下での大音量の通訳
- 必要以上の音声情報



- 聴覚を疲れさせ
- 聴覚低下を引き起こす

まとめ

- ノイズを押さえて
- 必要最小限の音量で
- サインなどを併用しながら
- 効率よく
- 必要な情報を
- 適切なタイミングで
- 伝えていこう！